

関西大学人間健康学部「福祉と健康コース」学術講演会

社会と医療をつなぐ「翻訳者」としての 専門職の役割－医療行政・病院運営を例として－

日時

2018年
12月11日(火) 13:00～14:30

場所

堺キャンパス SA402 教室

【聴講無料 申し込み不要】

講演概要

医療の世界における諸課題は、時代の移り変わりとともに目まぐるしく押し寄せてきています。高血圧や糖尿病といった生活習慣病など長期にわたる慢性疾患への対応、超高齢社会の到来にともなう高齢者の運動障害や認知症への対策は、医療財政の緊迫化と相まって、日本のみならず欧米その他福祉国家における共通の課題となっており、こうした社会の動向を無視することはもはや不可能となっています。

しかし、社会の動向を踏まえて医療の諸課題を解決する役割を、実際に医療の最前線に立っている医療従事者があまり担えていない、という皮肉な現実があることは、意外と知られていません。今回の学術講演会では、加藤先生（京都大学医学部附属病院）ご自身のこれまでのご経験を交えながら、医療従事者の立場だからこそ果たすことができる、医療と社会とをつなぐ「翻訳者」としての役割についてお話しいたします。関心のある多くの方々の来場をお待ちしています。

講師



京都大学医学部附属病院
診療報酬センター 准教授

加藤源太
(かとうげんた)

プロフィール

1972年神戸市生まれ。京都大学医学部卒。大阪赤十字病院で救急医療に従事後、京都大学大学院文学研究科（社会学専攻）にて、医学・医療という知をめぐる専門性・総合性について研究を行う。2009年より京都大学医学部附属病院救急部・医員、2011年より厚生労働省保険局総務課・課長補佐として勤務後、2014年より現職。

現在、京都大学医学部附属病院で病院経営支援に従事するほか、厚生労働省が管理するレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を活用した研究の支援にも積極的に取り組む。指定難病患者データ及び小児慢性特定疾病児童等データの提供に関する有識者会議構成員その他、公的活動にも従事。博士（文学）。専門分野：救急医療・医療社会学・医療政策。